

スクールソーシャルワーク事業モデルのインパクト評価（その2）

ーワークショップによる参加型評価ー

○ 大阪府立大学大学院 横井 葉子 (07537)

山野則子 (大阪府立大学・03203)

キーワード：プログラム評価, 実践家参画型ワークショップ, 評価ファシリテーション

1. 研究目的

本研究は、プログラム評価理論（Rossi=2005）に基づいて2010年のニーズ評価から開始し、2014年試行のプロセス評価、アウトカム評価を実施し改善を重ね、効果的なスクールソーシャルワーク（SSW）事業プログラムモデル（山野 2015）を完成させてきた。さらに、「戦略的創造研究推進事業」（JST）の助成を受けて、Webシステムによる量的データによる評価システムと参加型評価による質的評価の両面による仕組みを構築してきた。本発表は、この仕組みの参加型評価による質的評価に関する報告を行うものである。

本発表における研究目的は、この効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムモデル（山野 2015）の「実施・普及（大島 2016：13）」において、スクールソーシャルワーカーおよび事業実施主体（地方自治体の教育委員会）が参加しながらプログラム評価活動を習得できる、ワークショップ形式の研修を開発することである。

2. 研究の視点および方法

スクールソーシャルワーカーは、2008年に文部科学省のスクールソーシャルワーカー活用事業導入によって全国に広がり、子どもの貧困対策として急速に増員が進んでいる。2017年4月には学校教育法施行規則の改正により、スクールソーシャルワーカーは「学校の職員」として「児童の福祉に関する支援に従事する」（第65条の3）ことが明記された。しかし、事業の骨格づくりは実施主体の地方自治体（教育委員会）の企画手腕に依存し、スクールソーシャルワーカーの実践の諸要素も不明確な状況が続いてきた。

山野（2015）のプログラムはこの状況に対する社会的介入であるが、この研究では、開発されたプログラムモデルを事業実施主体の地方自治体の実施し、評価活動を通じて事業を継続的に改善するための仕組みを構築し、それを全国に広げるため（大島 前掲書：13）の方法を確立する必要がある。そのため、以下の実践家の参画により、ワークショップ形式による評価活動の普及方法を開発した。

期間：2015年4月～2017年8月

対象：プログラム評価を実施する、または実施に関心のある、のべ191の地方自治体

方法：①プログラム導入に成功している地方自治体に所属する、中核的なスクールソーシャルワーカー、スーパーバイザー、教育委員会等の事業担当職員（グッド・プ

ラクティショナー)によるグループディスカッション8回(参加者のべ113人)

②①の成果物としてのワークショップ型研修会の試行8回(参加者のべ405人)

*実施回数および参加者数の集計は大友秀治(北星学園大学)による。

3. 倫理的配慮

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科研究倫理委員会において、研究方法およびデータ管理方法等の審査を受け承認を得た。また、日本社会福祉学会研究倫理指針、特に「第2指針内容B事例研究」「第2指針内容G学会発表」を遵守し、実施した。

4. 研究結果

以下の(1)(2)のワークショップ型評価活動の研修方法が開発され、それが「評価ファシリテーションの手引き」(教育委員会向け・スクールソーシャルワーカー向け)と題する2冊の手引書の形にまとめられた。

(1) スクールソーシャルワーカー向けのワークショップ

①プログラム実施後のフィデリティ調査結果を活用するためのワークショップ

(2) 地方自治体(教育委員会)の事業担当職員向けのワークショップ

①プログラム導入のための障壁分析を行うワークショップ

②プログラム実施後のフィデリティ評価結果を活用するためのワークショップ

ワークショップの詳細と参加者の参加後の変化については、当日報告する。

5. 考察

教育委員会の事業担当職員、スクールソーシャルワーカー等のいずれにおいても、プログラムのフィデリティ評価によって自らがどのような障壁に直面しているのかを明確化し、それを乗り越えるための方策を得ることのできるワークショップがプログラムの円滑な導入と実施のために必須であることがわかった。また、このプログラムの構造がそれを提供できるものであることがワークショップを通して明らかになった。今後の課題は、事業導入までのプロセスを明らかにして、計画的に段階を踏んで事業実施・普及がはかれるようにしていくこと。また、ワークショップにおいてファシリテーションを担うことのできる人材を地域ごとに確保・育成していくことである。

【参考文献】

大島 巖(2016)『マクロ実践ソーシャルワークの新パラダイム』有斐閣。

Rossi, P., Lipsey, M., Freeman, H., Evaluation: A Systematic Approach 7th ed., Sage. (=2005 大島巖・平岡公一・森俊夫ほか監訳『プログラム評価の理論と方法』)

山野則子編著(2015)『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク』明石書店。